

# 水俣病と比較検討

## 非汚染地区 有明町で住民検診

侯班 水究 大研 熊病

「隠れ水俣病」の発掘調査を進めている熊本第二水俣病研究班（代表・武内忠男第二病理教授）の公衆衛生学教室（野村茂教授）

は、二百二十日から天草郡有明町の住民検診を始めた。二十六日まで

の日程で、町漁協（松本正武組合長、三百二十一人）の組合員と家

族千九百九十五人（二百七十二世帯）を診断する。

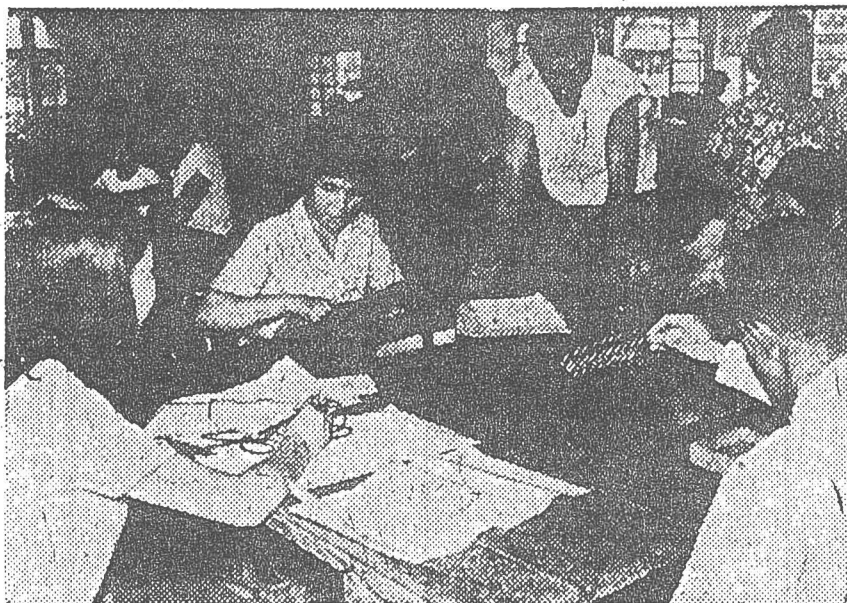
同研究班は先に天草郡御所浦町、嵐口、水俣市月浦、出月、湯堂の各地区で住民検診を実施したが、これらの地区は、いわば水俣病汚染地帯。これに対して有明町は、水俣病との直接の関係はないが、同じような漁師世帯だけに比較検討して特徴をつかもうというもの。

ろには早くも二十人が列をつくるほどの関心の高さを示していた。同班は十八日に、全対象家庭に健康状態調査表を配布、六十項目にわたるアンケートに記入してもらい、十九日までに一〇〇割回収。このデータをもとに、痛み、視野狭さくはないか、血液、尿検査、ジャンプ力、内診など二十項目について詳細な検査をした。

この日は同町大浦小講堂に、松下敏夫助教授をリーターとする調査班二十三人がやって来た。午前九時の受け付け開始に、同八時で

ある男の人（名）は「水俣病といわれてもピンとこない。私らは有明海で漁をしているので直接の影響はないでしょう。健康診断のもりで家族六人で来ました」と話

有明町大浦小での住民検診



していた。また町役場厚生係員も松下助教授も、家族ぐるみでの健康診断の機会がほとんどなかったのだ、気軽に受けられている、とみており、同日だけで約二百人を診察した。